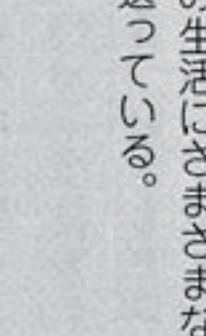


新しい悦びの時代へ向けて

NPO法人
ぐだかけ会代表
和田重良

1948年小田原市生まれ
ぐだかけ生活舎での共同生活（人
生科や農作業）をとおして、青少年
年や家庭の生活にさまざまなメッセージを送っている。



人生においても、教育を考えるためにも、一人一人にとつて「今をどう生きるか」が大切なことであることは言うまでもありません。

過去を悔んで、また未来を憂いてばかりでは新しい時代を生み出せません。

今日からイキイキと生きましょう。何歳からでも…。

オーネ出のことの大切さ

子ども日めくりの
クソの役割

24は「クソにして出す」という言葉です。

子どもたちには人気のページですが、一体何の意味があるのだろうかと疑問になってします。

教育や生活をスムーズにしようとすれば、その

「目的をつかむ」ことがとても重要なことであることは何となくわかるのですが、あまり突き詰めて求めることはあります。そこでウツカリすると計算もあれば引き算もあるってことでしょう。そこで、いろいろ詰め込み過ぎた社会の中で「引き算思想」が流行っているようですが、これって「やり過ぎだから減らしましよう」という程度で少しハンパかなと思っています。人生はそう単純ではないから根本から考えます。

小学生に足し算と引き算を教えてみると、足し算はすぐ分つても「引く」ということがどうしても理解できない子がいます。難しいのでしょうね。

昔、書いた『両手で生きる』という本（現在、相

でまつたく伸びなくなってしまったなんという例を

見るわけです。又は、からうじて学校の成績はなん

とかついて行つたけれども、実際に何の役にも立つ

ていな人を見たりするのです。

ぼくは長年、不登校の子や不良の子たちと接して

きた中で、能力ってのは単純に「足し算思想」では

ダメ（要するにしあわせ感がない）だと思うようになつたのです。

人間の能力ってことを量るとき、いつもゼロ（空

っぽ・何もない）という所に立ち戻つてみるとい

うことがあります。

そういうところから引くという思想がなくて、あるところからマイナス方向に足していくだけですから、

足し算の裏返しで理解させようとしているのです。

そうじやないと、足りないものばかりが目につい

ます出発点（ゼロ）からや

つて行けるものから出しはじ

めていくとゼロからマイナス

方向への引き算のようだけれども「意欲」は満たされて足し算になつて行きます。です

から、余分なものを捨てる

生活や教育の理想です。

のはさつさと出す」ってことです。または「出す」

方を中心にコントロールしていければ入つてくる方も

スムーズになるつてことでもあります。

健康や体力の維持という目的からすると出すこと

はとても大切つてことなのです。

うにどんどんプラスしていけばどこまでも伸びると

思ふわけです。「これができたから次はこれ」と言うよ

うにどんどんプラスしていけばどこまでも伸びると

思ふわけです。

実際ほとんどの子が中学生頃までは能力の足し算

で伸びて行つてているよう思えるのです。

ところが、その方式でやつて来た子が中学や高校

でまつたく伸びなくなつてしまつたなんという例を

見るわけです。又は、からうじて学校の成績はなん

とかついて行つたけれども、実際に何の役にも立つ

ていな人を見たりするのです。

ぼくは長年、不登校の子や不良の子たちと接して

きた中で、能力ってのは単純に「足し算思想」では

ダメ（要するにしあわせ感がない）だと思うようになつたのです。

昔、書いた『両手で生きる』という本（現在、相

でまつたく伸びなくなつてしまつたなんという例を

見るわけです。又は、からうじて学校の成績はなん

とかついて行つたけれども、実際に何の役にも立つ

ていな人を見たりするのです。

百姓は何もない所（ゼロ）で生産的な暮らしをし

ていく象徴であり、クズ屋はその生活で利用したも

のカスやゴミを再利用したり、処理したりする生

産的な暮らしの象徴なのです。

ゼロから出発して、ゼロに戻る。これがぼくらの

生活や教育の理想です。